

あなたの寄付がアルヴァ・アアルトのスリークロス教会を救う



## 気候変動は建築遺産に影響を与え、破壊しています

ALVAR AALTOのデザインによって人生が豊かになると感じるみなさん  
AALTOの作品に影響を受けたデザイナー、建築家、ビルダーのみなさん  
SDGsを加速するためにアクティブに参加したいみなさん

スリークロス教会の屋根、壁と換気システムを修復するためには1億円が必要です。  
それは大変な金額ですが、100人の方が10人に声をかけてくださり、その10人がまた周りの方に声をかけてくださることで、可能になります。そして「もっと！」という強い思いの方がいらしたら、もちろん大歓迎です。

## YOUR DONATION WILL SAVE ALVAR AALTO'S CHURCH OF THE THREE CROSSES

### Commit to SDG-11 Target 11.4



Target 11.4 focuses on efforts to protect and safeguard the world's cultural and natural heritage.

ターゲット11.4は、世界の文化遺産と自然遺産を保護および保全する取り組みに焦点を当てています。

### THREE CROSS HELP

みずほ銀行 成城支店

普通 3030178

一般社団法人サステナブル建築協会  
シヤ)サステナブルケンチクキョカイ

修繕費用のご寄付をいただいたみなさんの名前は本の中に記録され、その本はヴォクセンニスカ教会（スリークロス教会）に置かれます。訪れた方に日本の皆さんの情熱と優しさを示すこととなります。

本に記名をご希望の方は、お名前・お名前のアルファベット表記・ご連絡先を以下のメールに送っていただければ幸いです。

MAIL: [INFOANDREA@A-H-ARCHITECTS.COM](mailto:INFOANDREA@A-H-ARCHITECTS.COM)  
メールタイトル: THREE CROSS HELP

## アルヴァ・アアルト

(1898年2月3日～1976年5月11日)は、ミッドセンチュリー・モダニズムの重要な立役者です。

1958年に完成したスリークロス教会（ヴォクセンニスカ教会）は、彼の独創性が最も現れた設計の教会とされています。フィンランドのイマトラにある小さな松林の中に彫刻作品のように佇むこの小教区の教会こそ、中欧の教会にみられる現代建築の発展に対するアアルトの答えです。

スリークロス教会は、重厚な防音のスライド式ドアを介して空間を分け、それぞれまったく別のスペースにすることができます。北側は祭壇とオルガンが設置された最も神聖な場となっていますが、その反対側ではパレーボールやバドミントンのプレーが可能で、互いの活動を妨げないつくりになっています。

このコンセプトには、公共の場としての教会に込められた、社会性の高い建築物にするというアアルトの考え方が強く表れています。

この設計のフォーカスポイントは使い手、つまり個人やコミュニティです。使い手にとってのウェルビーイング（心の健康）を目標に据えて、これを建築の面で支援していくというもので、モダニズムに対するアアルトならではの人道的なアプローチの一例となっています。このような例はほかにもあり、たとえば1940年代以降の有機的モダニズムのスタイルにも、アアルトらしさが認められます。

この唯一無二の傑作を実際に見学してみると、アアルトの自由な精神とイマジネーションあふれる建築様式を随所に感じることができます。その自由な発想のもとで、設えられた窓から降り注ぐ光のフォルムは一つとして同じものはありません。内装の素材、調度品、ランプに至るまで、そのすべてにおいて、高度な技巧が全体としてなじむ総合芸術作品としての建築を目指したアアルトならではの手法がうかがわれます。

この教会はアアルトの最も重要な作品の一つと言われ、**DOCOMOMO**選定建築物にも選ばれ、また世界遺産登録の申請も計画されています。

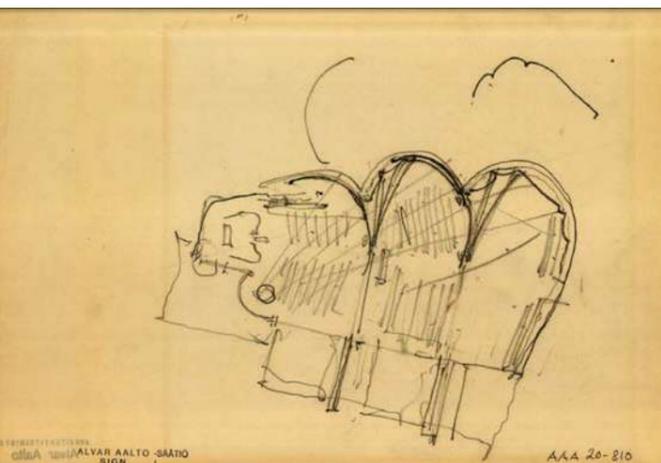
図面や写真で勉強するのも一つの方法ではありますが、真に理解するには、現地を訪れて実際の建築物とその意義を味わうこともまた一つの方法です



**私**はこの教会の精神に感銘を受けると同時に、目に映ったものに衝撃も受けました。湿気の問題です。（日本で言うところの）作務衣姿の聖職者や、イマトラから来て通訳業を切り拓いた人から聞いた話では、2012年から保存プロジェクトが始まり小規模修繕が行われているものの、気候変動が原因で湿気の問題が拡大しつつあり、この貴重な建築物を必要に応じて修理するための資金を十分に調達できないでいるとのことでした。

教会のことが頭から離れなかった私は、翌年、アアルト財団に連絡をして面会を申し込みました。対応してくださったのは、**AALVAR AALTO FOUNDATION**の**JONAS MALMBERG**(建築家、**DOCOMOMO**の登録などに関わっています)、建築家 **NIINA SVARTSTRÖM** (2012年以来、建物の保存を専門とする**ARKKITEHDIT MUSTONEN**オフィスで、ヴォクセンニスカ教会（スリークロス教会の段階的な改修に取り組んでいます)、教会を所有する**NPO**の財務担当者の**PASI TIIMO**、(2016年から教会の修復作業委員会のメンバー)です。

面会では、フィンランドの多くの建築物に実際に影響を与えている気候変動や、教会の現状、修理プロジェクト、資金不足などについて話をしました。



## 何をすべきなのか。

優先順位が高いのは、屋根、外壁、換気システムです。

しかし、この教会群を本格的に改修・修復するには、多額の資金が必要です。もちろん、この教会は特にイマトラの人々のために保存する必要があると思いますが、次の世代の人たちが見学して刺激を受けるための建築遺産としての意義の方が大きいと思います。

世界的には、文化とはアイデンティティの礎であり、帰属意識やコミュニティに社会的・経済的な結束力をもたらすものと認識されています。

このような時代だからこそ、積極的な対応が必要とされる所に向けて、ぜひともご寄付をお願いしたいと考えております。

この教会の完全改修を行うための資金調達にご協力いただき、**SDGs 11**、**タスク 11-4**、文化遺産の保護・保全の観点からも、意義ある支援を平等かつ前向きに行うものとしてとらえていただけないでしょうか。

一人の小さな行動には大きな影響力があります。

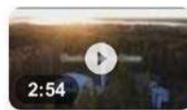
誰もが**SDGs**の実現に貢献することができるのです。

彦根アンドレア



ARVA AALTO

## Church of the Three Crosses - 2020 - YouTube



Church of the Three Crosses - 2020 Video: Petri Rautsiala, PSRmediaMusic: Improvisation, Johannes ...

Nov 16, 2020 · Uploaded by PSRmedialmatra



**JONAS MALMBERG**  
Arkkitehti, FM / Alvar Aalto -säätö  
M.Sc. (Arch), M.A. /  
Alvar Aalto Foundation  
jonas.malmberg@alvaraalto.fi  
tel +358 40 567 5600  
Tiilimäki 20  
FI-00330 Helsinki  
[www.alvaraalto.fi](http://www.alvaraalto.fi)  
<https://www.alvaraalto.fi/en/services/architectural-heritage/>



**Niina Svartström, architect**  
gsm +358 50 444 0052  
arkkitechdit mustonen oy  
Vilhonvuorenkatu 11 B 10, 00500 Helsinki  
[niina.svartstrom@arkkitechditmustonen.fi](mailto:niina.svartstrom@arkkitechditmustonen.fi)  
[www.arkkitechditmustonen.fi](http://www.arkkitechditmustonen.fi)



**Pasi Tiimo**  
Chief Financial Officer  
Imatra Parish (NPO)  
F.O. Virtasenkatu 6,  
55100 IMATRA  
Tel. 358 40 505 7460  
pasi.tiimo@evl.fi  
[www.imatranseurakunta.fi](http://www.imatranseurakunta.fi)



■PROFILE  
ドイツ・コンスタンツ生まれ  
1987 シュトゥットガルト工科大学 首席修了(建築・都市計画)  
1988 関・青島建築設計事務所 入所  
1989 磯崎新アトリエ 入所  
1990 株式会社彦根建築設計事務所設立(彦根明と共に)  
2011 日本エネルギー協会 副会長  
2012 JIA (日本建築家協会) 特別委員会 環境行動ラボ 会員  
2014 EneArt 設立  
2014 武蔵野美術大学 非常勤講師  
2019 Architects for future - voice of under 30 設立  
2020 一般社団法人 サステナブル建築協会 設立・理事長

## 募金活動

彦根アンドレア

一般社団法人 サステナブル建築協会 代表理事  
株式会社 彦根建築設計事務所 代表取締役  
Architects for future - voice of under 30 設立者

Mail: [infoandrea@a-h-architects.com](mailto:infoandrea@a-h-architects.com)  
Mail: [sustainable.architecture.inquiry@gmail.com](mailto:sustainable.architecture.inquiry@gmail.com)

Tel: 03-5429-0334  
157-0066 世田谷区成城7-5-3  
<http://www.a-h-architects.com/andrea/activity/>



**THE CHURCH OF THE THREE CROSSES IS AT RISK**

スリークロス教会は今危機状態に

アルヴァ・アアルトの後にスリークロス教会と名付けられたVuoksenniska教会はフィンランドの近代建築の中で最も重要な建造物と言われている。国際組織であるドコモはこの教会をフィンランドの近代建築の注目すべき建物として位置づけこれを選定した。1969年初頭に制定された町の計画にはこの教会の置かれている場所の保存条項が明記されている。“現存しているこの建物は建築学的にみて重要であり建設当時の外観、内装及び意匠などについての改造、修繕やペンキ塗装などはしてはならない。小規模の修理においても建築委員会の承認が必須”とある。

正式な保存条項があるものの今の教会の状態はこれを反映しているものではない。教会の主たるホールおよびエントランスロビーの内部は当時のままであるもののファサードの劣化は著しく、特に教会の南側の湿気による傷みは床から天井まで及んでいる。

教区民は修理の為に費用を生み出す必要に迫られている。学際的な保全の専門家が原因を特定し、問題は構造的かつ建築材料にありと判断し保護の必要性を説いている。そして適度でありながらも十分な現実的解決方を計画し、試みた。しかしながら、Imatra教区民行政部は修理費用の捻出ができず外部の支援を仰ぐ運びとなった。

1 The Church of the Three Crosses was protected on 25.2.2003 under the Church Act. In accordance with the Church Act, protection is carried out jointly with the National Board of Antiquities. A statement from the National Board of Antiquities is requested for each measure regarding notable alterations.

↑ Ice and snow form sculptural forms on the church facades, due to heat-loss through the thin concrete vaults.  
← The eastern facade in 2012. Physical deterioration, plaster cracking and deformed copper eaves on the facades.

## A UNIQUE 1950'S CHURCH IN BOTH CONCEPT AND DESIGN

発想とデザインこの両面からみてもユニークな1950年代の教会

この教会はImatraの教区員によって建てられたものでVuoksenniska の産業及びここに住む地域住民と社会の為のものである。ただ単に宗教的な儀式のためだけのものではなく、全ての教区民の為にスポーツを含む様々な活動に使われている。

スリークロス教会の建築は、機能重視の観点から自由と秩序が融合されたものになった。教会の設計にあたり異なる使用を構想し空間を3つに分け波打つ様なコンクリートの骨組みを作りそれぞれに西向きの入り口を設けた。3つの空間は大容量のモーター使用の可動壁で仕切られ個別にも統合した形での仕様も可能となっている。

内部には若干の変更が加えられたのみである。手直しはオルガンとオルガン用のバルコニーで、地下にある台所と隣接する貯蔵庫は僅かな変更のみである。

エントランスロビーにはバリアフリーの入り口を設けたトイレが後付された。

## FORMS WITH EMOTIONAL POWER

情緒的な力をもつ外形

ファサードはレンガに白漆喰をぬり、屋根は銅板である。支持構造はレンガの組積壁と薄いコンクリートのボルトで作られた。屋根は有機的な形で柔軟性のある壁が徐々に屋根のスラブ部分に変形する形で収めてある。ピロティはほぼ壁の中に収まっている。

現代的な趣の強いデザインではあるものの中世から伝わる伝統的なノルディック教会の特色が塔、聖具室、後陣や聖歌隊席などに多く取り入れた作りになっている。西側の入り口は伝統的な武器庫のような設えである。

入り口は高さを低く抑えてあり形は四辺形ではあるが、教会の3分割出来る内部は起伏にとんだ伸びやか且つダイナミック空間になっている。これとは対照的なのが塔であり形は流線型で、近在の工場の建物と競うように屋根から突き出ている。この塔は建物の地下の土台部分に使用された大量のコンクリートのみで支えられている。

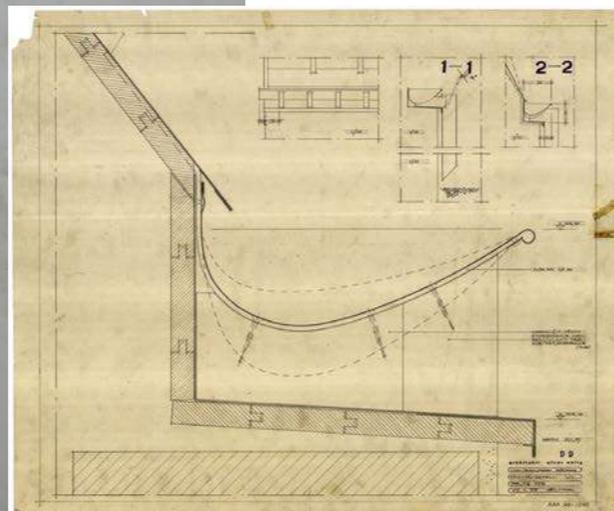


- ↑ The window sills and copper gutters have been deformed by ice and snow on all facades, but the eastern facade has the most challenging forms.
- ← View from the church tower.



← The copper eaves on the eastern facade as found in November 2013. It had been altered, possibly due to repeated icing problems and deformations. This part of the roof eaves was chosen to make a tentative repair of the gutter in 2016.

↓ The copper eaves and gutter as shown on the original working drawing number 173 by Aalto on 25th of January 1957.  
© Alvar Aalto Foundation



## THE CHURCH NEEDS REPAIR

### 教会には修理が必要

このスリークロス教会はル・コルビュジエの代表作と言われるロンシャンのLa Chapelle Notre Dame du Hautと比べられてきた。残念ながら今ではこのアアルトの傑作建築も湿気による問題に直面している。教会の白のファサードは松の幹の間から輝いて見えるのだが近くに寄るとその素晴らしさは薄れてしまう。

教会が建設されたのは1957年でそれ以降ファサード部分は北欧の早いサイクルで繰り返される氷結と融解にさらされ続けてきた。教会の塔の部分は建設当時には白色で美しかったが、劣化が進んだため1978年コンクリートの吹付け作業を行った。最近まで当初滑らかな下塗りがなされていたファサード部分の、再下塗りおよび再塗装が行われてきた。

アルヴァ・アアルトは銅板をはった屋根の下の空間を次の様に説明した“空気の断熱層”であると。しかし換気は機能しなかった。3つのホールに使用した厚みの薄いコンクリートのボルトから熱が逃げだし、そのために氷結と融解が周期的に起こり続けるのであった。ファサード東側の曲線部分は冬になると毎年氷の彫刻が出現する事態となっている。

銅葺きの屋根は雨漏りし、銅のひさはしは変形し、ファサードのプラスターは剥げ落ちこれは全て湿気が原因である。板状の銅の屋根のといの下からむき出しのレンガが見える。ファサードの外観維持のための修理は年中行事であると教区員の聖具保管係は言うのだが湿気の問題の解決にはならないのである。



← The facade plasterings have been cracking on the outside since the church was built, but in 2018 pictures the moisture damages have become visible on the inside walls as well. © Alvar Aalto Foundation/ Pinja Eerola 2018.



← The eaves on the eastern facade after a tentative reparation in November 2015. The aim was set to restore the form of the roof as well as to open a proper ventilation gap, which had been neglected in the earlier repairs as well as in the original construction. © The Imatra Parish/ Jari Nousiainen

→ A new copper lattice was added to North-Eastern corner to enhance ventilation under the copper-roof.

**WHAT HAS BEEN DONE SO FAR?**

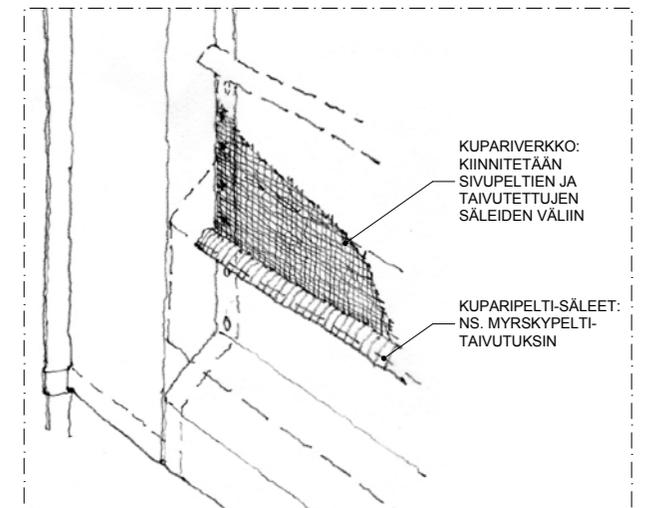
いままで何がなされてきたのか？

大規模の手直しは行われなかった、そして修理、修繕はファサードには行ったものの修正は僅かでしかなかった。例えば、当初から使用されていた縦樋は修理が施され新品と交換され、西側ファサードに設置された入り口のキャノピーは作り変えられ、また屋外の照明装置は取り除かれたなどだ。

壁にひび割れ、軒の銅の樋の変形を目の当たりにして教区員が動いたのが2013年のことである。この問題解決にあたり保存の為に諮問グループを立ち上げ劣化調査及び対策を施す試みを2013年から始めることとした。2013年から2017年の間教会の状態を把握し、歴史的な観点からの調査がおこなわれ、且つ計画上の施策が有効可否か判断するために試験的な修理が施された。



↑ Endoscopy of the roof structures by engineer Heikki Möttönen in May 2013.





2016年から2018年には地下に置かれた台所とトイレの換気と湿気問題の解決のための修理が、地下部分、西と南側の入り口、そしてコートヤードの雨樋などの部分に対して行われた。

調査の結果、湿気問題が建設当時からの排気システムにもある程度原因があることが判明した。それは内部の空気が教会ホールから直接屋根に向けて漏れ出ることにあるのだと。すなわちホール内の空気の通り道が不十分である上、当初からの空気排出システムが“30年以上の間”機能していなかったのだと、インタビューに対して教区員の聖具保管者Pekka Tirronenは答えた。

2016年には一時的な処置としてこれ以上の問題を起こさないために排気機能を取り付けたのであるが、これは教会の3つのホールに対しだけであった。

- ↑ Between 2016–2018 the southern entrance granite slabs were removed, and the concrete slabs underneath were recast and moisture insulated. Water had been flowing through under the treshold cut in stone.
- The facade in December 2018. One of the original courtyard light fixtures in copper was repaired and re-installed on the courtyard wall. © Alvar Aalto Foundation/ Pinja Eerola 2018.



↓ The facade moisture end temperature changes have been monitored by the parish since 2013. The repairs have diminished moisture in the cellar.

↓ Degraded concrete had grown calcium carbonate stactites beneath the concrete slabs. This is a result of calcium hydroxide being leached from concrete.

↓ Between 2016–2018 the western entrance slabs have been removed, the concrete structures recast and moisture insulated.



## WHAT NEEDS TO BE DONE TO SAVE THE CHURCH?

これから何をすれば教会を救うことができるのでしょうか？

教会存続のためには屋根の修理は必須である。気候変動により将来のメンテナンスを行うのは容易なことではない。

屋根の軒と樋は全体的な修理が必要であり排気機能の強化もおこなわれなければいけない。建設当時のディテールをもとにその後付け加えられた変更は建物とその構造機能に対しての妥協案でしかなかったことを考えた上で再建する。

屋根が元に戻った時点で、修理が必要なレンガ作りのファサードの修理を行うこととする。

当初からの排気システムは新しい物に変更、これに熱回収用のユニットも取り付けるとする。

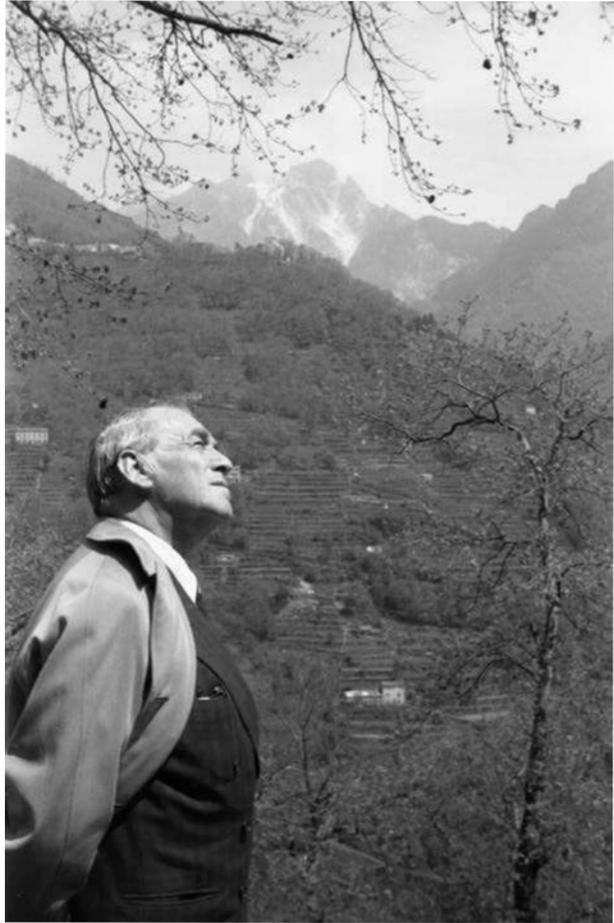
2020年1月26日

Niina Svartstrom 建築家

→ The eastern facade in February 2015.



Who is Alvar Aalto



Hugo Alvar Henrik Aalto (pronounced [ˈhugo ˈalvar ˈhenrik ˈɑːlto]; 3 February 1898 – 11 May 1976) was a Finnish architect and designer.[1] His work includes architecture, furniture, textiles and glassware, as well as sculptures and paintings. He never regarded himself as an artist, seeing painting and sculpture as "branches of the tree whose trunk is architecture." [2] Aalto's early career ran in parallel with the rapid economic growth and industrialization of Finland during the first half of the 20th century. Many of his clients were industrialists, among them the Ahlström-Gullichsen family.[3] The span of his career, from the 1920s to the 1970s, is reflected in the styles of his work, ranging from Nordic Classicism of the early work, to a rational International Style Modernism during the 1930s to a more organic modernist style from the 1940s onwards. Typical for his entire career is a concern for design as a Gesamtkunstwerk, a total work of art, in which he – together with his first wife Aino Aalto – would design the building, and give special treatment to the interior surfaces, furniture, lamps and glassware. His furniture designs are considered Scandinavian Modern, in the sense of a concern for materials, especially wood, and simplification but also technical experimentation, which led him to receiving patents for various manufacturing processes, such as bent wood.[4] As a designer he is celebrated as the inventor of bent plywood furniture.[5] The Alvar Aalto Museum, designed by Aalto himself, is located in what is regarded as his home city Jyväskylä.[6]

Wikipedia





JONAS MALMBERG  
 Arkkitehti, FM / Alvar Aalto -säätiö  
 M.Sc. (Arch), M.A. / Alvar Aalto Foundation  
[jonas.malmberg@alvaraalto.fi](mailto:jonas.malmberg@alvaraalto.fi)  
 tel +358 40 567 5600  
 Tiilimäki 20  
 FI-00330 Helsinki  
[www.alvaraalto.fi](http://www.alvaraalto.fi)

<https://www.alvaraalto.fi/en/services/architectural-heritage/>

Dear than local sites in Aa found As you the c been slow have before may build build I do I has t the C spec desig Sein and I great I'll in office a rec if the Ther inter defin

親愛なる友人へ

連絡ありがとう。この教会は地元の教会によって所有され運営されています。アアルト財団がこの建築を運営または所有していませんが、ここに関わる情報と知識をお互いに共有しながら、建物の維持に取り組んできました。しかしながら財団で十分な再生の支援を得ることができず、教会では修復が必要な問題が放置されたままです。湿気や換気に関するいくつかの問題は、過去数年間で改修されました。しかし、それは部分的なもので、根本的には修繕の作業はなかなか進みません。一方、大規模な改修を行う前の、今までの小さなリノベーションを通して、技術的に建築にどのような影響がでるかも判明してきています。この種の研究は、元の建築技術と現代の建築技術で、難しいかつ貴重なモダニズム建築を復元するための良い方法が発見できる手掛かりになるかもしれません。この修復に関わってきた建築家タパニ・ムストネンはこのスリークロス教会で徐々に行われた技術的経験により、今後の修復にも十分信頼できる知識を持っています。彼はアアルトの建物の修復の最も経験豊富な建築の専門家であり、ヴァイブリ図書館、セイナヨキシビックセンター、アアルトの家、ユヴァスキュラ大学のレストランなど、多くのアアルトの建物の修復を設計してきました。また、設計チームの他のメンバーは、モダニズム建築とその修復について優れた知識を持っています。

この内容は、Tapani MustonenとNiina Svartström（過去7年間教会で働いてきたTapaniのオフィスの建築家）と共有し、今後の再生に活かされていくでしょう。今回のプロジェクトを通して、日本の皆さんの支援さらにはそれが国際的な注目と支援が得られれば、非常に大きな助けです。それは間違いなくアルヴァ・アアルトの教会の中で最も素晴らしいものの1つである「スリークロス」を将来に残すこととなります。このメッセージがあなたの活動への理解と答えになることを願っています。もちろんこれからも何か質問があれば遠慮なく言ってください。Jonas Malmberg'

I hope hesitate contact me again in case there is something that I did not answer or you may have any further questions.

Yours sincerely,  
 Jonas Malmberg'



Niina Svartström, architect  
 gsm +358 50 444 0052



arkkitehdit mustonen oy  
 Vilhonvuorenkatu 11 B 10, 00500 Helsinki  
[niina.svartstrom@arkkitehditmustonen.fi](mailto:niina.svartstrom@arkkitehditmustonen.fi)  
[www.arkkitehditmustonen.fi](http://www.arkkitehditmustonen.fi)

Dear all,

we are conce

親愛なる皆さん、

We have owner Evangr inform

私たちは日本からこのメッセージを受け取ることを嬉しく思います。そして三十字架教会の現状に対するあなたの懸念と関心に最も感謝します。

As You The bu conser imple

私たちは2012年以来、建物の所有者であるイマトラ教区と緊密に協力して取り組んできました。パリッシュは、フィンランド福音ルター派教会に所属する非営利団体です。ここに、教会保全プロジェクトに関する一般的な情報シートが添付されています。

In the order t the bu moistu

ご想像のとおり、修理のためのリソースは不足しています。教会と牧師館の徹底的な保存と修復のための建物の歴史的調査と計画プロジェクトは準備ができており、実施を待っています。しかし、資金が不足しています。

Just to eastern and all challer carrier after w

その間、これらの修理計画を実際にテストし、損傷を引き起こす建物の物理現象に関する知識をさらに深めるために、2013年から2017年にかけて一連の小規模な補償が実施されました。（1950年代の建物の最初の日以来、深刻な湿気の問題に悩まされてきました）。

This w very ec the ac

修復のいくつかの達成された例に言及するだけで、東軒の短い部分は、その後の変更が視覚的により元の状態に復元され、元の設計の技術的および構造的課題をわずかに軽減するための予防措置で変更されました。2016年から2017年にかけて、西側のエントランステラスからの水の浸透を防ぐために徹底的な修復が行われ、その後、元の花崗岩のスラブが慎重に配置されました。

All the

この作業は継続され、屋根の庇の修理が最初の目標ですが、状況を改善するために可能な限り協力することを非常に望んでいます。このオリジナルの宝石を保存するには、すべての共犯者が必要です！

Niina Sva

ではごきげんよう、



Pasi Tiimo  
 Chief Financial Officer  
 Imatra Parish (NPO)

F.O. Virtasenkatu 6, 55100 IMATRA  
 Tel. 358 40 505 7460  
[pasi.tiimo@evl.fi](mailto:pasi.tiimo@evl.fi)  
[www.imatranseurakunta.fi](http://www.imatranseurakunta.fi)

Dear A.H Architects in Japan and conservation project group members in Finland,

On behalf of ne most church there I writ

日本の建築協会とフィンランドの保全プロジェクトグループのメンバーの皆様、イマトラ教区を代表して、今回の日本からのプロジェクトのニュースを聞いてうれしく思います。スルークロス教会は、イマトラ教区で私たちが持っている最も価値のある芸術作品です。この教会の維持・保存には世界中の人々に興味を持っています。

As Ni missi has v succ high!

実際、今までもこの教会には多くの日本人の建築関係者や学生が訪れています。NiinaとTapaniが先に述べたように、私たちが面している問題はファイナンス的なことのみです。

Dear willin migh Imatr

もちろん教区はこの問題に非常に取り組んできましたが、残念ながらこれまでのところ成功していません。

Br,

そんな中、どんな形であれ、このようなサポートをいただけるのは大変高い評価となるでしょう。そのためならば、親愛なるA.H.Architects: Imatra Parishは、所有者に代わって、情報と助けを喜んで提供いたします。そして、つでもイマトラにこの教会を訪ねてきてください、お気軽にご連絡ください！

Googleによる翻訳